

Vol. 9 (2005.4~2006.3)

環境問題の取り組み 2005

# あおぞら財団 年次報告書

## Vol.9

2005.4~2006.3

### もくじ

あおぞら財団事業の概要	2
プロドライバーと一緒にすすめるエコドライブ	4
資料館オープンまでの道のり	5
「公害の被害を伝える」こと「現在の大気汚染を知る」ことの大切さ	6
	7
寄附・寄贈者	8
財政状況	8
役員・職員	8

2005年9月

財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階  
TEL : 06-6475-8885 FAX : 06-6478-5885  
URL : <http://www.aozora.or.jp/>  
E-Mail : [webmaster@aozora.or.jp](mailto:webmaster@aozora.or.jp)



# 2005(平成17)年度 事業の概要

## 1 全体

### (1) 2005年度の方針

2005年度は、西淀川公害訴訟の企業和解とそれに続くあおぞら財団設立の10周年にあたったことから、財団設立の目標(①公害根絶と地域づくり②公害経験の伝承③公害患者の健康回復と生きがいつくりなどの取り組みを有機的に関連させながら市民とともに公害地域の再生をめざす)の実現に向けて更なる前進が求められている年と位置づけた。

そして、財団には、西淀川再生に向けて、地域についての関心と問題状況を住民と共有しつつ、住民による地域づくりの取り組みを支援する協働のパートナーとしての役割が求められているとして、地域再生の活動の方向性として、歴史、環境、くらし、経済など地域の様々な現状をよく知ることが出発点であり、地区、事業者、女性、青年、高齢者など各層各分野で地域再生をめざすネットワークを縦横に形成することが不可欠であるとした。

そのうえで、05年度の重点事業として、①公害根絶と地域再生の分野では、地域交通マネジメント・センターの設立をめざした取り組みと各地区での地域再生ネットワークづくりを進める西淀川再生プロジェクト、②公害経験の伝承の分野での地域・公害資料館の設立事業、③患者会等と実行委員会を設けて、企業和解とそれに続く財団設立10周年の記念事業を進めることの3つを掲げた。

さらに、財団の今後の発展方向を検討するなかで、サポーター(賛助会員)制度と、事業活動を協働して取り組むボランティア・スタッフ制度の整備・充実、職員体制の充実や能力アップ、緊張感を持った業務遂行に努めることの重要性を指摘し、市民・住民とともに歩む自立した財団を将来像として呈示した。

### (2) 2005年度の総括

第1に、西淀川公害訴訟の企業和解と財団設立10周年記念事業については、05年10月10日に豊田誠弁護士とアグネス・チャン理事の講演を中心とする集いを行い、裁判と財団設立の歴史的な意義を確認すると共に、西淀川公害を教材にした環境教育ビデオ「手渡したいのは青い空」と財団紹介のリーフレットを完成させた。さらに、12月1日には、理事、評議員をはじめ財団活動に各分野でご協力いただいている方々の参加を得て、財団活動の今後の方向性に関するワークショップを行い、そこで出された貴重な意見をどう具体化するか現在検討を行っているところである。

第2に、資料館の設立に関しては、3月18日に設立記念シンポジウムを開催すると共に、小田康徳氏に館長に就任していただき、正式に「西淀川・公害と環境資料館(通称エコミューズ)」を設立した。資料「室」から資料「館」になったことなどから社会的な存在意義も増して、来館者も増加するなど順調に滑り出すことができた。

また、公害根絶と地域再生をめざした分野では、それ自体としては思うような進展を見ることは出来なかったが、06年1月から、植田和弘理事主催による西淀川再生研究会がスタートし、新たな視点からの取り組みが始まっている。

さらに、大阪トラック協会河北支部と協力して、NEDOの助成を受けたエコドライブの社会実験を実施し、エコドライブが、CO<sub>2</sub>削減や燃費削減による経済的メリット、安全運転に役立つばかりでなく、対話を通して運転手の人格形成にも役立つことなども明らかになり、貴重な成果を上げることが出来た。

全体的には、引き続き端緒的な成果に止まっているものの、今後大きく育てることが可能なくつかの成果が積み重ねられていることが重要であり、こうした成果を今後の財団活動に生かしていきたい。

## 2 事業

### 1) 重点事業

#### ■ 西淀川再生プロジェクト、地域交通マネジメント・センター

地域との連携を目標に、地域住民有志との話し合いを数回行ったが、「地域懇談会」の開催までには至っていない。現在、西淀川区では地域住民の参加をもとに、「福祉のアクションプラン」や「未来わがまちビジョン」といったまちづくり計画の策定が進められており、これらの進展にあわせ、財団の果たすべき役割・取り組みを模索中である。

地域交通マネジメント・センター構想の一環として、NEDO技術総合開発機構の補助事業に採択された「中小運送事業者へのデジタルタコグラフの組織的導入によるエコドライブ推進事業」を実施(39社315台のデジタル・タコグラフ設置を補助)。

#### ■ 地域・公害資料館の設立事業

2005年度は資料館オープンのための準備の年と位置づけ、オープンプレ企画としての展示開催、図書館や銀行、環境情報施設での巡回展、「資料館だより」の創刊、専門家や地元郷土史家などが参加する資料館運営懇談会の設置、資料館の愛称募集など、さまざまな機会を通じて、資料館がオープンすることを広く知らせてきた。そして3月18日には小田康徳・大阪電気通信大学教授を館長に迎え、「西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)」をオープンした。同日に開催した記念シンポジウムおよび資料館見学会には、全国あちらこちらから参加があり、ネットワークの第一歩を踏み出すことができた。

#### ■ 企業和解10周年記念事業

「西淀川公害裁判 企業和解とあおぞら財団設立10周年記念事業」として、10月10日に記念のつどいを西淀川区民会館で開催し、地元の住民をはじめ、各地の公害患者会や弁護士

など約400人が参加した。豊田誠弁護士の講演、アグネス・チャン理事のメッセージトーク、財団職員による活動紹介、完成したばかりの環境学習ビデオ「手渡したいのは青い空～未来からのメッセージ」のお披露目などを通じて、西淀川公害訴訟の歴史的意義と公害地域再生にむけた展望を確認する場となった。

会場前の大野川緑陰道路では道路環境市民塾による「にしよどチャリンコ祭り」を同時開催。ペロタクシーの試乗会や自転車発電などのユニークな企画が繰り広げられ、「クルマに依存しないまちづくり」を楽しみながら考えた。

この日にあわせて、記念にオリジナルトートバック、クリアファイルを作成・配布した。また財団の活動紹介リーフレットをリニューアルし、日本語版と英語版の両方作成した。

さらに、12月4日には初めての試みとして、財団理事、評議員、活動協力者など、財団関係者が一堂に集まる「徹底討論 あおぞら財団のこれからを考えるー財団設立10周年記念懇談会」を開催した。環境再生、地域再生の意義について植田和弘理事から話題提供があり、その後はグループに分かれてワークショップ。「西淀川で名物づくり」「大野川緑陰道路でお祭りを」など、楽しいアイデアがたくさん出され、「次の一手」をどう打つか討論した。

## (2) 個別事業

### ①公害のない住みよい地域づくりを進める活動(地域づくり)

#### ■ 道路交通問題に関する取り組み

【西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会・歌島橋交差点について】

【西淀川道路環境対策検討会の実施・運営】

【第Ⅲ期道路環境市民塾の開催】

【エコドライブの普及】

#### ■ みどりつながる自然豊かな地域づくり

【西淀川区内の緑の実態調査】

【交流、情報発信】

#### ■ 環境モニタリング

#### ■ 西淀川再生プロジェクト

#### ■ 大東市北条地区まちづくり基本構想・住宅建替え構想策定調査

### ②資料館の運営とネットワークづくり(資料館)

#### ■ 資料館運営の体制づくり

【資料館運営懇談会の設置・開催】

【「西淀川地域資料室」および「西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)」の運営】

【資料館オープン・プレ企画の開催(於:あおぞらビル)】

Part 1「写真と映像で見る西淀川地域と人びと」展

5月16日～25日(約270人参加)

Part 2「夏休みワクワク資料室 大野川緑陰道路であそぼう」8月22日～31日(約150人参加)

【資料館オープン記念シンポジウムの開催】

【『資料館だより』発行(隔月1日発行)】

#### ■ ネットワークの形成

【「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」活動への参画】

【「西淀川地域研究会」との協力連携】

【大阪人権博物館リニューアルオープンへの協力】

### ③公害の経験や地域の歴史を生かした環境学習(環境学習)

#### ■ 大気汚染公害被害と地域環境の映像記録化

#### ■ 環境学習プログラムづくりと実践

【西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会の開催】

【環境教育ビデオ「手渡したいのは青い空～未来からのメッセージ」作成】

【フードマイレージ教材化研究会】

【大野川緑陰道路の教材づくり研究会】

【大阪府立西淀川高等学校との連携プロジェクト「あおぞらプラン」】

NO<sub>2</sub>測定

まくわ瓜栽培

文化祭展示

公害患者と弁護士の話を聞く会

校外学習(矢倉海岸フィールドワーク)

【エコクラブ(学童保育所とガールスカウト26団)の活動】

【見学の受入】

【出張講師】

【日本野鳥の会との連携】

#### ■ 参加型アセスメントの普及

### ④公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動(環境保健)

#### ■ 高齢認定患者に対する介護支援施策の検討

#### ■ 公害保健福祉事業の充実と推進

#### ■ 西淀川公害患者と家族の会と連携した介護支援施設づくり

#### ■ 公害健康被害予防事業の普及推進

#### ■ 長期的聞き取り法による花粉症環境基礎調査

### ⑤国際交流

## 3 広報・活動交流

### (1) 広報

### (2) 他団体との交流

## 4 組織

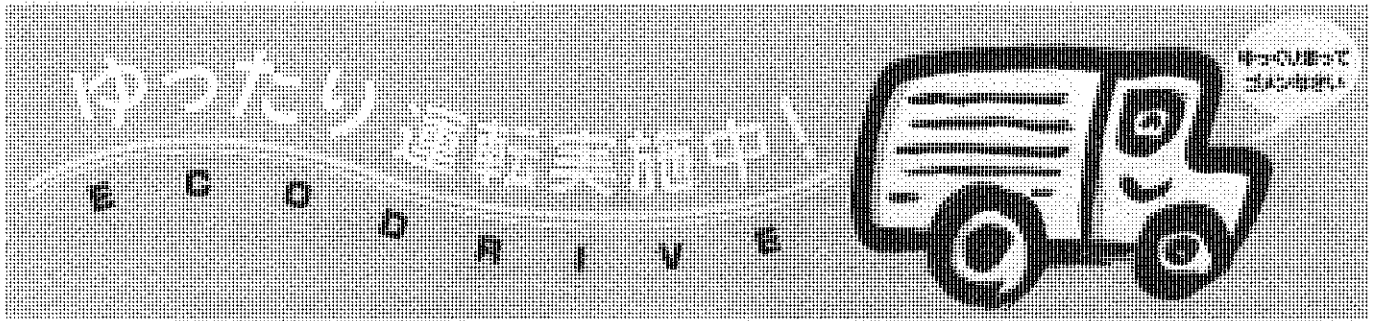
### (1) 理事会、評議員会

### (2) 事務局

### (3) 賛助会員、ボランティア

### (4) 研究者ネットワークづくり

### (5) インターン



運行中、運転者に示すエコドライブ

## プロドライバーと一緒にすすめる本物エコドライブ

### ～新たな広がりをみせた3年目の取り組み

平成15年度からスタートしたあおぞら財団のエコドライブ普及の取り組みは、3年目を迎え、新たな仲間を得て、大きく広がりました。

平成17年度は、あおぞら財団、(社)大阪府トラック協会、(株)矢崎総業が協働で、平成17年度NEDO技術開発機構・民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業に採択され、「中小運送事業者へのデジタルタコグラフの組織的導入によるエコドライブ推進事業」を実施しました。

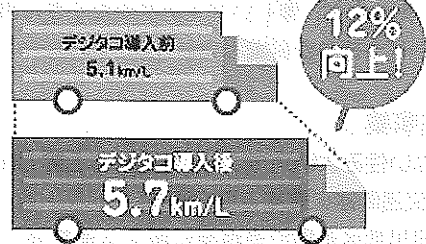
これは、エコドライブ支援機器(デジタルタコグラフ)を活用したエコドライブに協力いただける企業を募り、省エネ・地球温暖化防止に貢献していこうというもので、運輸事業者39社、315台の参加を得ることができました。

結果(2006.3現在、13社64台分)として、92%の車両で燃費が向上し、導入前と後では、8トン車で平均12%、25トン車で平均6%向上しました。この値をもとに試算すると、全国の営業用トラックの1割が取り組むと332トンのCO<sub>2</sub>削減につながり、国土の約10分の1を森林にしたことと同じ効果

- ① 無用なアイドリングをやめる
- ② 燃費のよい経済速度で走る
- ③ 無駄な空ぶかしをやめる
- ④ 急のつく運転をしない  
(急発進・急加速・急ブレーキ)  
(急発進・急加速・急ブレーキ)
- ⑤ 早めにシフトチェンジをする
- ⑥ 余裕をもった車間距離をとる
- ⑦ タイヤの空気圧を適正にする
- ⑧ 液漏れを招く故障はしない
- ⑨ 夏のカーエアコンを1℃高めに
- ⑩ エンジンブレーキを多用する

「プロドライバー」が、  
実践している。その  
結果は「エコドライブ」  
10%

【図3】平均燃費の向上(8t車)



を得ることができます。

エコドライブは、①環境への貢献とともに、②経費削減、③交通事故の減少をはじめ、④ドライバーの人格形成、⑤ドライバー・事業者・運行管理者間でのコミュニケーションの促進、⑥交通流の円滑化、と一石六鳥の効果があり、これからの持続可能な社会づくりに向けて不可欠な運転技術(心得)です。

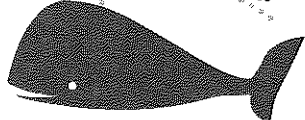
今後も、より多くの方の理解と協力が得られるよう、この取り組みを続けていく予定です。事業所及びドライバーの皆さんをはじめ、事業に協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。引き続き、よろしくお願いします。

(藤江 徹)

(詳細はホームページを参照ください : <http://www.ecodriver.info/index.html>)



### つらしま



たった3台から始まったエコドライブの取り組みが、早くも3年目で300台の取り組みへと広がりをみたことは、苦勞も多かったと思いますが、大きな成果で“はなまる”です。あとは、自然にエコドライブ交通の流れができるよう、1人でも多くのエコドライバーを増やすことや、西淀川に早く本物のあおぞらを取り戻せるよう、地域が一丸となってエコドライブに取り組める体制をつくる取り組みが望まれます。

(馬場 明男)

## 資料館オープンまでの道のり

### 「エコミューズをよろしくお願いします」

#### こんなことをやりました

2006年3月18日、あおぞら財団付属「西淀川・公害と環境資料館」がオープンしました。愛称は1403件もの応募の中から選んだ「エコミューズ」です。2005年度はこの「資料館オープン」に向かって走り続けた1年間でした。

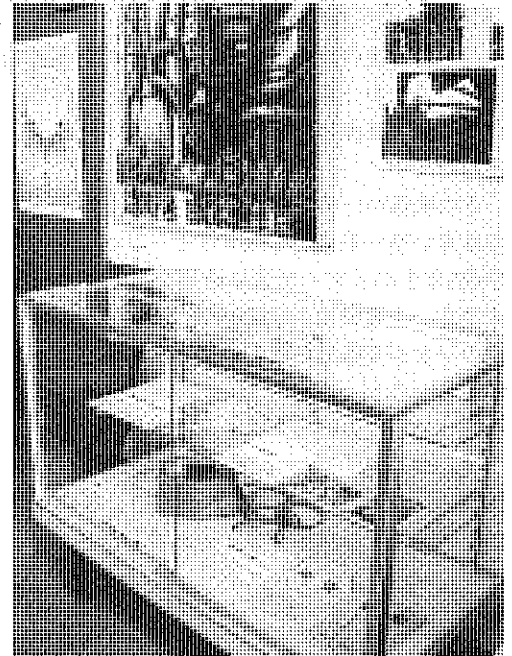
まずは資料館がオープンすることを知らせようと、オープン・プレ企画展や巡回展をおこないました。プレ企画はPart1「写真と映像で見る西淀川地域と人びと」展（5月16日～25日：約270人参加）、Part2「夏休みワクワク資料室 大野川緑陰道路であそぼう」（8月22日～31日：約150人参加）をあおぞらビルにて開催しました。開催にあたっては、地元や関係者の方々から資料をお借りすることで、人との交流が生まれ、あらたな資料の発掘につながりました。さらにはリニューアルしたばかりの西淀川図書館や近隣の銀行で「大野川緑陰道路ものがたり」のパネル展をおこないました。図書館や銀行での展示は、財団設立以来はじめて実現したことで、今後も続けていければと思います。

資料館の運営や活動内容を検討する場としては、博物館の学芸員や歴史研究者、郷土史家、教育関係者など、さまざまな立場の人が参加する「あおぞら財団資料館運営懇談会」を設置し、計4回開催するなかで、資料館のあり方や体制、名称、



「大野川緑陰道路ものがたり」の展示をみる子どもたち

新たに展示ケースを設置しました



活動内容などについて活発に議論することができました。

そしていよいよオープン前には、小田康徳・大阪電気通信大学教授を館長に、運営していくことが決まりました。3月18日には資料館オープン記念シンポジウム「環境再生の時代に公害経験から学ぶ～公害・環境問題資料の保存と活用～」をエルモ西淀川にて開催し、会場をいっぱい埋めた約220人の参加者で、公害問題資料を保存していくことやネットワークの大切さを確認することができました。

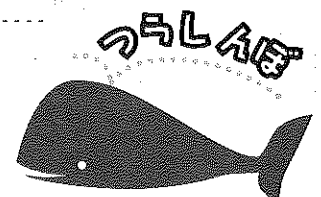
#### ～担当者から～

まさに「継続は力なり」です。財団設立後すぐにはじまった資料収集・整理は、およそ10年間いろんな人たちの手によって絶えることなく続けられ、今ではダンボール箱にして230箱の資料が集まり、そのうち2万点の資料がデータベースに入力されています。こうした地道な活動がなければ、資料館をオープンすることはできなかったと思います。みなさんに感謝いたします。

（鎗山善理子）

後世に資料を残していくために資料館ができてホントによかった。いいことやと思うよ。私を含め、患者にとっては「捨てようかな」と思っている資料でも、見る人によっては大事なものがたくさんある。公害を風化させないためには、もっともっと区民や大阪市民に資料館を利用してほしいね。（談）

（西淀川公害患者と家族の会事務局長 永野千代子）



## 「公害の被害を伝える」こと「現在の大気汚染を知る」ことの大切さ

### 〈二つの語り部映像〉

公害の被害の語り部である公害患者が高齢化している現状から、証言の「語り部ライブラリー」を作成しています。この語り部の映像は、患者さんがライフヒストリーを語っているものです。

その映像の一部を活用して、環境学習ビデオ「手渡したいのは青い空～未来からのメッセージ～」を作成しました。小学校5年生の公害の学習に活用できる、ドラマ仕立てのビデオです。主人公は小学校5年生の浩太。浩太の目の前に100年後の少女が登場し、ぜん息で苦しんでいるのは、浩太君たちが何もしなかったからだ…という問いかけから西淀川公害を調べていくというストーリーです。

その他にも、エコミューズの開館にあわせて映像資料をDVD化したことから、より西淀川公害についてビジュアル的に学習できる環境が整えられました。



カプセルで測定した二酸化窒素濃度を地図に記録します(2005年8月23日)

### 〈NO<sub>2</sub>調査〉

大気汚染とぜん息の原因物質である二酸化チッソはカプセルを使って簡易に測定することができます。西淀川高校の3年生「環境」の時間、子どもエコクラブ、佃小学校で測定を行いました。西淀川高校では生徒の自宅玄関で測定し、大きな地図(西淀川区・淀川区・北区・豊中市・箕面市など)に測定値のシールを張り、汚染状況を確認しました。また、子どもエコクラブで、春・夏・冬に西淀川で測定を行いました。佃小学校では、ビデオ「手渡したいのは青い空～未来からのメッセージ～」を活用して研究授業が行われ、あわせてNO<sub>2</sub>カプセル測定をしました。概して冬の大気汚染は深刻で、環境基準値である0.06ppmをオーバーする結果となりました。

### 〈新たななるプロジェクトの発足〉

「大野川緑陰道路の教材づくり研究会」「フードマイレージ教材化研究会」が西淀川公害に関する学習プログラム研究会から生まれました。ただいま、教材づくりに向けて活動を続けています。

(林 美帆)

### 大気汚染公害被害の「語り部」

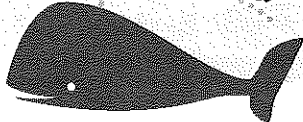
ライブラリー①

岡前 千代子



「被害の語り部」がDVDに

つらしんぼ



患者さんのお宅を一軒また一軒とお訪ねしました。岡前さん、塚口さん、北村さんと路地を尋ねてお宅にお邪魔させていただきました。このお三人をはじめとして幾人の方が玄関先で庭先で待ってくださいました。皆さんが「語り部」としての今日的な意義にうなずき、あの勝利判決までの苦労話を静かな口調で話してくださいました。

静かな口調ですが、公害のひどい現実、環境が人の身体をむしばんでいった苦しさをじっくりと深い心で語られました。無念、悔しさ、憤りがにじみ出ているのです。負けてはいられない。訴えや署名。そのために遠くにも旅したり、裁判所に行く、企業に迫る。

それらが昨日のここのように語られ描きだされ、あお

ぞら財団のライブラリーに収められる。

子や孫たちに同じつらい目にあわせたくない。人間の良心が、人間の真実が重い裁判所の壁を押しひろげて光を見た。そして国との和解。長い歳月にわたる闘いを支えてくださった人たちが、今は亡き人の遺影の下で行われた撮影もありました。

訪問をさせていただき、お話しをお伺いする私を、初対面であっても、まるで懐かしい人に「いっしょに闘ったあの頃」を語りかけてくださった。歩んできた人生と闘いの年輪がお人柄と表情に刻まれているのです。

今年もまだまだ「語り部」の皆さんへの行脚はつづきます。

(佐伯洋/詩人)

# ぜん息患者の生きがいづくりを目指して

## ～日常生活でできるリハビリテーションの取り組みと開発～

### ■新たなリハビリテーションプログラムの策定

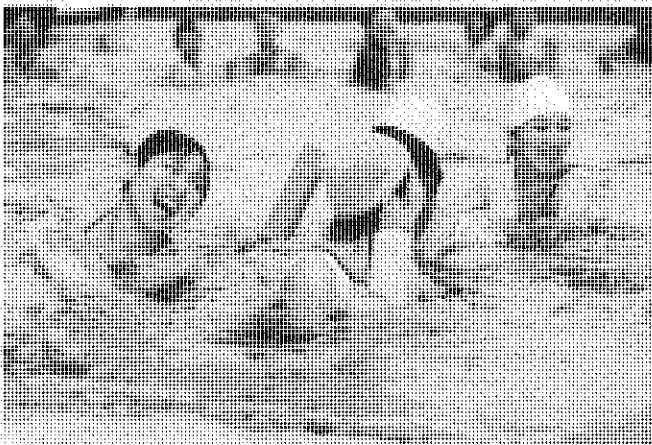
公害健康被害の補償等に関する法律に基づく認定患者の高齢化が年々進み、日常生活動作における負担が大きくなっています。その負担を軽減する新たなリハビリテーションプログラムの策定に着手するために、大阪と東京の患者さん19人から聞き取りと、大阪の患者さん200人にアンケート調査を実施しました。

この調査によって、全体の65%が「認定疾病や合併症によって体を動かすことを控えている」こと、5年前、1年前と比較して、食事、入浴、家事、外出や歩行など日常生活全般の活動性が低下していること等が明らかになりました。今後は、患者さんの生活動作の不自由さを作ったきっかけを取り除き、活発な生活を送るためのリハビリテーションプログラムを検討していく予定です。

### ■水中運動、ガイドします

2004年から「水中健康回復事業」は公害保健福祉事業として、旧第一種地域における公健法担当主管課により実施されています。しかし、事業の実施の際に必要な健康運動指導士等における知見の蓄積が未だ浅いことから、事業の担い手となる人材を育成するために、健康運動指導士に対する講習会を開催しました。当日は、呼吸器疾患や水中運動の指導に関する講義と実践のノウハウを提供するプログラムを企画し、60人が受講しました。

講師の穂久英明先生（財団法人淀川勤労者厚生協会西淀病



水中運動の指導を受ける健康運動指導士



学校生活を楽しむための技をオープンディスカッションで議論

院副院長）と尾陰由美子先生（㈲アクトスペース企画）から、「水中運動がぜん息にいいということはよく知られているが、水の4つの特性（浮力、水圧、水温、抵抗）の特性を活かして、歩く距離を伸ばすことで、日常生活における動作能力の向上や酸素を体に取り入れる力が改善します。実際に発作が起こった時や呼吸が苦しくなった時の介助の仕方を習得して、少しでも多くの患者さんに『あせらず』、『楽しく』その人らしい運動を行えるようサポートして下さい」と話がありました。

### ■学校生活におけるぜん息予防のコツ

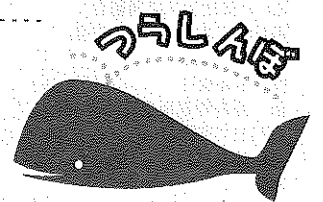
2月25日（土）に大阪YMCA会館（大阪市西区）で、「ぜん息等予防講演会 子どものぜん息SOS」を開催しました（独立行政法人環境再生保全機構主催）。子どものぜん息・アレルギーにテーマをしぼり、治療や薬の最新情報を提供すると共に、ぜん息を持った子どもたちが他の子どもたちと同じように集団生活を送り、成長発達できるよう、周囲にいる主治医、学校関係者、保護者の連携を通じた支援についての現状と課題について議論を深めました。

「ぜん息があっても自分の好きな活動・やりたい事が『できる』実感や体験を積み重ねると、積極的に病気を克服できると思う。そのためには、主治医や学校関係者、家族や本人自身が、正しい知識を共有し、連携してぜん息をコントロールする環境を作っていくことだ」等の意見が出されました。

（矢羽田薫）

水中リラックス教室で一番大事なのは、「難しく考えず、気がつくと自然に体が動いて、必要な動きをやるのが運動なんです」と患者さんに伝え、実感してもらうことです。不安や緊張を抱える患者さんの立場に立って、コミュニケーションを取ることで、信頼関係が生まれます。あとは、運営スタッフが知恵、技術、熱意そして、想像力を持ち、積極的に情報発信をして働きかけることで、事業が発展すると思います。

（尾陰由美子）



2005年度寄附・寄贈者

- |       |         |
|-------|---------|
| 相川 泰  | 高木 敷寛   |
| 天野憲一郎 | 武田 博志   |
| 新井 真  | 田中 千    |
| 飯田 直樹 | 辻川 敦    |
| 池上 甲一 | 土本 育司   |
| 井奥 圭介 | 土居 悟    |
| 井関 和彦 | 堂見 敏雄   |
| 井上 善雄 | 中島 晃    |
| 入江智恵子 | 撫坂 博史   |
| 上杉 剛  | 西口 勲    |
| 上園 昌武 | 西村 弘    |
| 植田 和弘 | 新田 保次   |
| 上田 幹枝 | 野尻 節雄   |
| 遠地 昭典 | 林 暎子    |
| 遠藤 宏一 | 羽柴 修    |
| 逢坂 隆子 | 長谷川慧重   |
| 岡田 知弘 | 馬場 明男   |
| 小川千代子 | 林 克行    |
| 尾崎 寛直 | 林 宏     |
| 小田 康徳 | 原田 智代   |
| 笠井 俊彦 | ビナーアランダ |
| 柏原 純夫 | 樋口 市蔵   |
| 片岡 直樹 | 福富 和夫   |
| 嘉田由紀子 | 福本 富男   |
| 金谷 邦夫 | 藤野 礼    |
| 神長 唯  | 藤森 弘    |
| 神吉紀世子 | 牧 洋子    |
| 北泊謙太郎 | 松岡 弘之   |
| 岡田 裕子 | 松下 正和   |
| 熊野 実夫 | 松村 暢彦   |
| 是枝 洋  | 三宅 宏司   |
| 酒井 健一 | 村松 昭夫   |
| 阪田 徳夫 | 村松 一    |
| 佐賀 朝  | 森山 正和   |
| 澤井余志郎 | 八木 一夫   |
| 沢西 義博 | 山川 昭次   |
| 塩貝 隆夫 | 山崎 圭一   |
| 塩崎 亨  | 山田喜美子   |
| 芝村 篤樹 | 山本 一    |
| 清水 和作 | 湯浅 精二   |
| 庄谷 邦幸 | 吉田 巖    |
| 進士五十八 | 吉村 智博   |
| 炭谷 茂  | 吉村 良一   |
| 関上 哲  | 米田 憲司   |
| 芹沢 芳郎 | 和田美頭子   |
| 高橋理喜男 |         |

- 愛知県公害患者の会連合会  
 尼崎公害患者・家族の会  
 NPO法人名古屋南部地域再生センター  
 関西合同法律事務所  
 倉敷公害患者死亡調査研究班  
 交通エコロジー・モビリティ財団  
 神戸大学文学部地域連携センター  
 国文学研究資料館  
 (財)水島地域環境再生財団  
 榊ジョイックス  
 せせらぎ出版  
 佃小学校  
 全国公害患者の会連合会  
 電力労働運動近畿センター  
 東京大気汚染公害裁判原告団  
 トヨタ財団  
 なにわ保健生活協同組合  
 西淀川公害患者と家族の会  
 日本環境会議  
 財団法人評論社  
 浜一事務機器販売(株)  
 (財)日立環境財団  
 水俣協立病院  
 水俣フォーラム  
 榊山崎シャーリング

財政状況

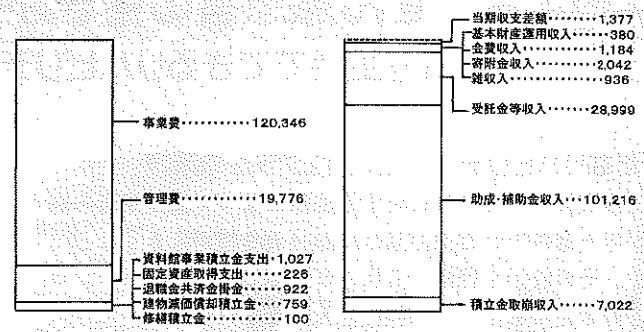
(2005年4月1日～  
2006年3月31日)

支出 合計 143,156

収入 合計 143,156

(単位：千円)

●当期収入・支出の状況

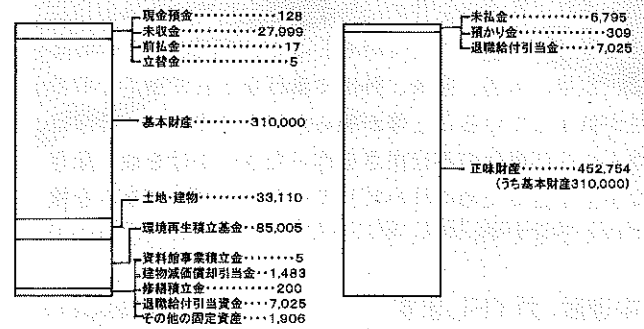


(単位：千円)

●貸借対照表

資産 合計 466,883

負債・正味財産 合計 466,883



役員・評議員／職員 (50音順、敬称略)

平成18年2月8日現在

理事長 森脇 君雄 (全国公害患者の会連合会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長) (常勤)

専務理事 村松 昭夫 (弁護士) (非常勤)

- 理事 アグネスチャン (歌手、日本ユニセフ大使、教育学博士) (非常勤)  
 植田 和弘 (京都大学大学院教授、環境経済学) (非常勤)  
 金谷 邦夫 (うえに生協診療所所長、内科医師) (非常勤)  
 塩崎 賢明 (神戸大学教授・同大学院自然科学研究科教授、都市計画) (非常勤)  
 新田 保次 (大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻) (非常勤)  
 早川 光俊 (弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事) (非常勤)  
 宮本 憲一 (元滋賀大学学長、大阪市立大学名誉教授、環境経済学) (非常勤)  
 森脇 昭夫 ((財)地球環境戦略研究機関理事長、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授、法学) (非常勤)

監事 熊野 実夫 (公認会計士)  
 福本 富男 (弁護士)

顧問 進士五十八 (東京農業大学教授、造園学)  
 高橋理喜男 (大阪府立大学名誉教授、造園学)

- 評議員 太田 映知 (全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団理事・事務局長)  
 岡田 知弘 (京都大学大学院経済学研究科教授)  
 神吉紀世子 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻、農村計画)  
 北元 敏夫 (西淀まちと自然の会幹事、森林生態学)  
 小池信太郎 (公害・地球環境問題懇談会幹事長)  
 高田 研 (岐阜県立森林文化アカデミー教授、環境教育)  
 高田 昇 (立命館大学政策科学部教授、都市計画論、大阪都市環境会議幹事長)  
 辰巳 致 (特定非営利活動法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長)  
 壺井 貞志 (元大阪市環境保健局技術監)  
 津留崎直美 (弁護士)  
 西村 弘 (大阪市立大学大学院経営学研究科教授)  
 橋本 孝子 (ルーテル大学大学院社会福祉学専攻、社会福祉士、介護支援専門員)  
 林 功 (大阪から公害をなくす会・大阪公害患者の会連合会事務局長)  
 樋口 市蔵 (西淀川区地域振興会会長、社会福祉法人大阪市西淀川区社会福祉協議会会長)

\*林功、樋口市蔵両評議員は、いずれも在任中に急逝されました。ご冥福をお祈りします。

事務局 (2006年9月現在)

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 上田 敏幸 (総務)  | 林 美帆 (研究員)  | 鎗山善理子 (研究員) |
| 大野みさ子 (会計)  | 藤江 徹 (研究員)  | 水野 順子       |
| 小平 智子 (研究員) | 矢羽田 薫 (研究員) |             |